# [連載] ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか 第4回 北九州市の新球技場整備事業

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

### 1. 本拠地・本城の観戦環境

2012年6月24日(日)夜,非常に激しい雨の中,北九州市立本城陸上競技場(以下,「本城」という)ではJ2の2012年シーズン前半最終戦となるギラヴァンツ北九州VS大分トリニータの一戦が行われた。試合は0対2で大分の勝利。ギラヴァンツは22クラブ中15位でシーズンを折り返すことになった。

この試合については、集客面でも非常に"痛い"一戦となった。隣接する地域をホームタウンとする大分戦は、アビスパ福岡戦と並び「大規模集客が見込める」一戦で、2010年には7,470人、2011年は6,670人が本城に観戦に訪れた。しかし試合開始前から終日激しい雨に見舞われた2012年の観戦者数は2,129人と大幅に落ち込んだ。

ギラヴァンツ北九州が本城で試合をする際、雨が降ることは少なくない。Jリーグに加盟した2010年の降雨は18試合中2試合だったが、2011年は19試合中5試合、2012年前半は11試合中3試合となっている。この他、集客に大きな影響がある試合前降雨があった試合も2011、12年は数日あった。2011年のギラヴァンツの場合、雨天時平均入場者数は、それ以外の天候時のマイナス24.2%まで落ち込んでおり雨の影響は大きい。そして、入場料収入の減少はクラブ経営の悪化にも直結する。雨が集客に影響する大きな理由は、「本城の観戦スタンドには屋根が全くない(傘をさしての観戦は禁止)」、「スタンド以外で雨をしのぐ事ができる場所もほとんどない」点にあることは容易に推測できる。また、試合時はスタジアムグルメ(飲食屋台)も出店しているが、降雨時には雨を十分しのげず購買・飲食が難しい環境となるなど、試合観戦の意欲が低下し、来場しない人々が多く発生することは残念ながら当然だ。

クラブ側も、雨天時には荷物を入れるためのポリ袋を配布したり、女性向け簡易着替え場所を用意したりするなどの工夫をしているが、基本的に雨対策はハード面に起因する問題であり、ソフト面での対応では十分な効果は期待できないであろう。

この他、本城の観戦スタンドは、その形状の悪さ等に起因し、試合が非常に見づらい席がある等、観戦者にとって観戦しやすい環境ではない。Jリーグの公式ファンサイト「J's GOAL」におけるスタジアム・レーティング(2012 年 7 月 1 日時点)では、これまでJリーグ公式戦が開催された全国延べ82 会場中、本城は65 位という、大変低い外部評価を受けている。これを今シーズンのJリーグ40 クラブが本拠地として試合開催している会場に限ると、39 位で下から2 番目である。

また、Jリーグに限らず他の各種大会運営者や競技者にとっても、本城は使い勝手の悪い面が幾つもあるという話はよく耳にする。

先日,ある陸上競技場を本拠地とする,J1の有名クラブ職員にヒアリングさせていただいた際,「現在の本拠地はあくまで"体育施設"、"教育施設"であり、みるスポーツを楽しむことができる"スポーツ文化施設"ではないことは大きな問題だ」との話をうかがった。本城においても同様、あるいはより深刻な課題であると指摘できよう。

### 2. 理想のスタジアムとは

それでは、「みるスポーツ」としてのサッカーにとっての理想のスタジアムとはどのようなものか。Jリーグ理事を務める傍士銑太氏は、多くの欧州スタジアムの視察経験などを踏まえ、街の誇りとして愛され続け、文化的・経済的に地域社会に貢献し、プロスポーツにふさわしいビジネス環境の整った「理想のスタジアム」には8つの哲学が備わるとし、以下の点をあげている。

① 文化として【サッカースタジアム】 もっとピッチに近く! 陸上競技のトラックはもう要らない。

② シンボルとして【ホームスタジアム】 スタジアムは、街の誇り。

③ コミュニティーができる【ファミリースタジアム】 誰もが安心して楽しめる空間。交通アクセス、屋根のある個席、バリアフリー。

④ ホスピタリティー【社交スタジアム】 「ホーム |の感情を共有し、他者とつながる社交場。

⑤ 街の集客装置【街なかスタジアム】 中心市街地活性化の新たな求心力。

⑥ 多機能複合型【スタジアム・ビジネス】 365 日, 試合のない日も人を呼ぶ。

⑦ 環境にやさしい【グリーンスタジアム】 経済成長と環境政策の両立を実現。

⑧ プロフェッショナル【スタジアム経営】 各分野の専門家集団による。

(出所)Jリーグ(2011)より抜粋

本城の場合、もともと競技の場として、しかも陸上競技場として整備された点を鑑みても、 このいずれの要件もほとんど満たしていないといえる。

## 3. 北九州市の新球技場整備事業

一方, 北九州市では, ギラヴァンツ北九州の本拠地となり, 他にも様々な活用を行う事を目指した「新球技場整備事業」に現在取り組んでいる。

#### 3.1 新球技場整備事業の経緯

北九州市新球技場整備事業の主な経緯等をまとめたものを表1に示す。

この間,2011年2月の北九州市長選においては、この整備構想の推進の是非が争点の1つにもなった。また新聞・テレビ等の報道でも度々取り上げられるなど、新球技場整備事業の存在は多くの北九州市民が認知しているものと思われる。

それでは、この整備事業はどのようなものなのか。以下に、2012年5月開催の第3回新スタジアム将来イメージ検討会および2012年7月開催の市議会総務財政委員会において示され

#### 表1 北九州市新球技場整備事業の主な経緯等

2007年4月	市内のサッカー, ラグビー関係団体が, 2.5 万人収容の専用球技場の建設要望を市に提出。
(2008年)	ニューウェーブ北九州(当時)が JFL 昇格および J リーグ準加盟。
2008年3月	北九州市スポーツ振興審議会「体育施設のあり方」において、Jリーグ規格を満たした球技場の優先的整備を提言。
2008年12月	『元気発進!北九州』北九州市基本計画において、高規格・大規模な球技場の整備の検討推 進が位置づけられる。
(2009年11~12月)	ニューウェーブ北九州が JFL での所定の要件を満たし、Jリーグ加盟が決定。ギラヴァンツ 北九州に改称し、北九州市初のプロスポーツチームとなる。
2010年1月	新球技場の建設候補地を、①小倉駅北口地区、②スペースワールド園内、③八幡駅北口に絞り込み。
2010年3月	ギラヴァンツ北九州が本城をホームスタジアムとしたJリーグ公式戦を開始。
2010年11月	市が「新球技場に係る基本方針」策定。建設候補地を小倉駅北口地区に決定。
2011年10月	市が「新スタジアムについて考えるシンポジウム」開催(基調講演:川淵三郎氏)。
2011年10月 ~ 2012年2月	北九州市公共事業評価システムにおける「大規模事業」に相当する事業規模であるため、 市の総務企画局が事務局となる公共事業評価委員会において第1回目の事前評価を実施。
2012年4月	公共事業評価結果およびパブリックコメントを踏まえ、新球技場整備事業についての「市の対応方針」決定。  ○「具体的な事業計画の策定に向け、より詳細な検討を進める。  今後、より事業内容が具体化された後に2度目の事前評価に諮り、評価委員会や市民の意見を受け、方針を決定する(一部要約)」。
2011年12月 ~ 2012年5月	市の市民文化スポーツ局が事務局となる「新スタジアム将来イメージ検討会」において、 将来像等について検討。
2012年9月?	事業計画をまとめるための予算を含んだ補正予算が市議会に提出か?
時期未定	公共事業評価委員会において第2回目の事前評価を実施。
※2016 年度中	公共事業評価の結果等を踏まえて整備が実現した場合の, 新球技場の供用開始時期 (2012 年 7 月時点での見込み)。

(出所)北九州市公共事業評価委員会資料(平成23年度第1回資料3)等をもとに筆者作成

た整備イメージ等をもとに、事業概要を簡単に紹介する。

### 3.2 新球技場整備イメージ (2012 年春時点)(注1)

- ■事業目的: サッカーやラグビーなどのレベルの高い試合やコンサートなどの開催を通じて、市民に夢と感動を与えるとともに、豊かで活力ある北九州市の創出を目指すため、新球技場を整備する。
- ■概算事業費:おおむね100億円強(競技場本体建設費)。
- ■事業手法:PFI事業(BTO方式)を想定。
- ■基本方針(2010年11月発表):
  - ○サッカーやラグビーなど球技専用の施設。
  - ○おおむね2万人を収容できる施設。
  - ○多くの人が訪れやすい施設。
  - ○まちの活力向上に貢献する施設。
  - ○環境未来都市にふさわしい施設。



図1 北九州市の新球技場の完成予想イメージ図(中央右寄りの施設が新球技場)

(出所)北九州市スポーツ振興課(2012)

■建設候補地:北九州市小倉北区浅野3丁目。

※選定理由:市内各所・全国各都市からの交通結節点である小倉駅に近接し(徒歩7分), 交通アクセスに優れる。また、飲食・宿泊施設や駐車場など周辺の都心機能と連携が図れ、まちのにぎわいづくりが期待できる。

#### ■施設のイメージ:

- ○観客・選手・関係者など全ての人々が利用しやすい球技場。
  - ・ユニバーサルデザインに配慮。
  - ・試合の演出をサポートする大型映像装置。
  - ・常に良好な状態で開催可能な天然芝。
  - ・関係諸室等や放送設備などの充実。
- ○都心部ならではの特徴を活かした球技場。
  - ・太陽光発電や雨水再利用、LED 照明など環境未来都市を象徴する様々な工夫。
  - ・商業施設やホテル、国際会議場など周辺都心機能との連携。
  - ・関門海峡に面する特徴を活かした眺望・親水空間の導入。

#### ■施設の魅力:

- ○みんながつどい、にぎわいを生む"海ちか・街なか"スタジアム
- ○環境未来都市にふさわしい"エコ"スタジアム
- ○夢と感動を生みだす"ダイナミック"スタジアム

#### ■整備効果等:

○北九州市のシンボル施設として,市民が誇れる魅力ある施設となることで,市民が気持ちを1つにするという一体感が醸成される。

- ○都市のイメージアップ、PR 効果が期待できる。
- ○子どもたちの夢やあこがれの施設となることで、スポーツを通した健全育成を図る場となる。
- ○世界でもっとも一般的・普遍的なスポーツといわれるサッカーを通じ, 交流を進める場となる。
- ○現時点では、プロスポーツ、アマチュアスポーツの試合開催や市民利用等により、年間 25 万人の来場を想定しており、また観戦者消費による年間約 12 億円の経済効果を見込んでいる。

#### 3.3 行政評価の視点からみた新球技場整備事業

現在の北九州市の公共事業評価システムにおいては,50億円以上の事業については事業着手の前に2回の事前評価(それぞれ内部評価,外部評価,パブリックコメントを実施)を行うこととなっている。新球技場整備事業はその対象となるため、1回目の外部評価に相当する北九州市公共事業評価委員会が2011年10月~2012年2月に実施され、基本設計前の構想段階での、事業の必要性・有効性等について活発な議論が行われた。最終的には、具体的な事業計画を示すために基本設計等を行う(次の段階に進む)ことについて全会一致で「異存なし」となったものの、経済効果等を巡り疑問等が示され、また、今後は市民意見の把握に努めるべき等の留意事項が意見としてまとめられた。

本事業のような大規模事業について丁寧に評価を行いながら取り組んでいる点について, 行 政経営の点からは高く評価できよう。

## 4. まちの活性化につながる計画を

新球技場はギラヴァンツ北九州の本拠地となるが、それ以外にも多様な活用が想定されており、それらにともなう様々な効果が見込まれる。本事業が「立派なサッカー場を造る」ことだけが目的であってはならず、新球技場を核として「地域を元気にし、地域への愛着を育む」ことの実現を目指して地域一体となって有効活用に取り組み、期待以上の整備効果を長きにわたって実現し、まちの活性化につながる事業になることを期待したい。

### 注

(注1) 3.2 については、北九州市スポーツ振興課(2012)等の公表資料を筆者が要約したもの。

## 参考文献

北九州市公共事業評価委員会 (2011 ~ 2012) 「(仮称) 新球技場整備事業の評価」関連資料 北九州市スポーツ振興課 (2012) 「新スタジアム将来イメージ検討会」関連資料および同事業説明資料 J リーグ (2011) 『J.LEAGUE NEWS 特別版 スタジアムの未来』 J リーグメディアプロモーション提供 Web サイト「J's GOAL」 (http://www.jsgoal.jp/)